

## ✧ 海外ニュース ✧

英国 2024年1月3日 Electric Vehicle Charging & Infrastructure

### ■ 英国でモーターウェイサービスの高出力電気自動車充電器の設置目標が未達

UK misses motorway services high-power EV charger target

自動車協会によると、2023年の終わりまでに100万台の大台を超えているべきであった英国で増加中のバッテリー電気自動車に供給を行うための50kW超の目標数の充電器を有しているのは、電気自動車充電スタンドアプリ「ザップマップ」で調査された119のモーターウェイサービスのうち46カ所（39%）のみである。2023年の終わりまでに50kW超の少なくとも6つの（一部では12を超える）急速充電器を有すべきという政府の目標は、2022年3月25日に発行された政府の「充電：電気自動車インフラ戦略」で規定されている。

米国 2024年1月4日 World Highways

### ■ テキサスのハイウェイ建設プロジェクトが進行中

Texas highway construction project underway

テキサス州で4億1,400万米ドル規模のノース・タラント・エクスプレス容量改善プロジェクトにて建設作業が行われている。作業はフェロビアルの子会社であるシントラが行っている。ルートはフォートワースとダラスを結ぶものである。テキサス州の交通局によると、プロジェクトコストは完全に通行料収入から資金提供を受けることになる。元の建設されたコリドーと同様、ノース・タラント・エクスプレスは同局に所有されるが、NTE モビリティ・パートナーズがランプや橋すべてを含む（一般および管理レーンの）コリドーへ24時間年中無休の運用、メンテナンスを提供する。

スペイン 2024年1月8日 elEconomista

### ■ スペインの建設会社アクシオナ社と ACS 社は米国アトランタの高速道路 SR-400 の受注を巡ってフェロビアル社と競合する

Acciona y ACS se alían para retar a Ferrovial por la autopista SR-400 de Atlanta

アクシオナ社と ACS 社は、受注額 20 億ユーロの高速道路入札の最終選考まで残った。次の夏までにそれらの企業連合は、入札参加の意思を明らかにする。この高速道路は米国ジョージア州アトランタにある高速道路 SR-400 エクスプレスレーンと呼ばれ、現在、大型プロジェクトのうち1つが建設進行中である。受注に参加するアクシオナ社と ACS 社、それにフェロビアル社は、2つの企業連合を形成し、最終的に設計、建設、資金調達、開発、そして維持を行うこととなる。その2つの企業連合のうちいずれかが受注しても、開発から運営までスペイン系企業が受け持つこととなる。

米国 2024年1月10日 Roads & Bridges

### ■ カリフォルニアが道路の安全性向上のため AI を検討

California Considering AI for Safer Roadways

州政府事業機関は現在、交通渋滞を減らし車両衝突を防ぐため生成 AI の使用を試みている。当局者によると、運転を妨げうる気象関連現象についてリアルタイムでドライバーに警告し、逆走ドライバーについて運転者に注意を促すため、AI が将来利用可能となる。メッセージが電話や車のダッシュボードに送付可能となり、人々に準備のための数秒間を与える州の地震警告システムと類似したものとなる。州は現在、年内の実証プロジェクト立ち上げを目指し、技術セクターに対しこの技術の使用開始のために提案を提出するよう求めている。

英国 2024年1月10日 Highways Magazine

## ■ 世界初のくぼみ修復ロボットが路上へ

World's first pothole repair robot hits the roads

正式名をアレス・プリベントというこのロボットは、人工知能画像技術を用いて道路の亀裂やくぼみを特定、特性化する。これは2020年から開発されてきたもので現在は試験段階にあり、実験室環境で大規模な試験を受けてきた。今年初めにハートフォードシャーの住宅街で「実際の」道路修復のため路上に出る予定である。これはハートフォードシャー郡議会のハイウェイエンジニアとの協同で、リバプール大学の研究者らにより開発されており、初の自律道路修復システムと考えられている。欠陥を特定すると、このロボットは自動的に亀裂を埋め、地表の水を排除し、くぼみが形成されるのを防止する。

米国 2024年1月11日 CNN

## ■ ハーツ社が20,000台の電気自動車を売却し、代わりにガソリン車を購入

Hertz is selling 20,000 electric vehicles to buy gasoline cars instead

近年、電気自動車に注力してきたハーツ社は、縮小の時が来ていると判断した。同社は自社の電気自動車の3分の1、すなわち約20,000台を売却し、そのお金をさらなるガソリン車を購入するために使用する。幹部が述べたところによると、メンテナンスコストが低い一方で損傷修理コストや価値の下落が大きいため、電気自動車は同社の財務状況を悪化させつつある。中古車市場で多数の車両を販売する同社のようなレンタカー会社にとって、この価値の下落は自社の事業に大きな影響を及ぼし、自社車両としてどの車を保有するかを決める際の主要因子となる。

ドイツ 2024年1月11日 VerkehrsRundschau

## ■ 会計検査院報告：政府橋梁近代化工事、目標達成に黄信号

Rechnungshof : Bund droht Ziele bei Brücken-Sanierung zu verfehlen

運輸・交通専門誌 Verkehrs-Rundschau が2024年1月に報じたところによると、ドイツ連邦会計検査院は連邦議会予算委員会への報告書の中で橋梁の近代化工事を優先事項とする必要性を指摘し、これが実現しなければさらなる老朽化の進行、ひいては通行止めが懸念されるとした。2022年3月交通大臣ヴィッシングが橋梁近代化加速のための施策パッケージを提出し、その中で政府の高速道路管理運営会社アウトバーン GmbH が最も老朽化の著しい高速道路橋を2032年までに近代化するとしていた。しかし会計検査院は、同パッケージでは近代化の必要な構造物が網羅しきれていない、と批判している。また同院はアウトバーン GmbH の人員拡充の必要性とともに、橋梁の新規建設・拡張工事よりも補修維持により多くの予算を配分する必要性を指摘した。

スイス 2024年1月15日 ITS International

## ■ 5,400万ユーロ規模のスイストラック通行料システムの契約をカプシュのジョイントベンチャーが獲得

€ 54m Switzerland truck toll system deal won by Kapsch joint venture

カプシュ・トラフィックコム社とスイス企業ロストンファウンド（アドセキュアの一部）は、スイス連邦財務省関税・国境警備局から国家トラック通行料徴収システム用ハードウェアおよびサービスを提供する契約を獲得した。この2年のオプション延長を伴う8年契約は合計約5,400万ユーロ規模となる。この50:50のジョイントベンチャー契約には3.5トン超の重量物運搬車に対する顧客サービス、車両機器、データ収集が含まれる。プロジェクトには通行料が課せられる車両に対する全地球的航法衛星システム対応車載装置の展開が含まれる。

米国 2024年1月16日 Highways Magazine

### ■ クリーンアップ・ブリテンが路上ごみに関し英国初の提訴

Clean Up Britain brings UK-first court case over motorway litter

著名人の支持を得ている沿道のごみや不法投棄に関するキャンペーンに注力するクリーンアップ・ブリテンは、1990年の環境保護法の下、国有企業に対して訴訟を起こした。訴訟では、National HighwaysがM25のジャンクション10（現在は主要強化プロジェクトの1つの現場となっているNational Highwaysの広報担当者は「ポイ捨ては社会問題であり、われわれは道路でこれに取り組むべく尽力しており、環境保護法の責務に応じている」と述べている。

フランス 2024年1月19日 World Highways

### ■ セコイアが交通管理に分散型音響計測を使用

Sequoia to use DAS for traffic management

フランスのスタートアップ企業セコイア・アナリティクスは、準リアルタイムで交通渋滞を示す振動を測定するための沿道光ファイバーケーブルの情報を使用する予定である。同社は国立デジタル科学技術研究所Inriaが主導するInriaスタートアップスタジオプログラムの一部を担うが、南フランス、ニース周辺のヴォア・ピエール・マティス・バイパス沿いで小規模試験プロジェクトにおいて分散型音響計測技術の利用に成功したと述べた。また同社の革新により道路当局にかつてないレベルの詳細情報をもたらすことができるため、道路交通管理に革命を起こすことができるとも述べている。

オーストラリア 2024年1月23日 Roads & Infrastructure

### ■ トラックタイヤをコンクリート縁石交換へ転用

Truck tyres transformed for concrete kerb replacement

メルボルン大学工学部、ポロス・レーン社、ビクトリア州政府間の提携により、古いトラックタイヤがコンクリート縁石交換へ取り入れられている。サステナビリティ・ビクトリアの助成金の支援を受けたこの取り組みは、オーストラリア初のリサイクル縁石を開発、試用、供給することを目指している。300スペースの駐車場の1区画がエポキシ結合剤で結合された粒状廃タイヤと碎石の混合物で作成された。この製法においてセメントは必要ではない。縁石の性能は、品質、強度、破片のろ過、水はけ、地元の植物相への影響を評価することに特に焦点を当て、評価、モニターされる。

米国 2024年1月25日 Roads & Bridges

### ■ 革新的インフラプロジェクトへの財源に49億ドルを発表

\$4.9 Billion Announced for Funding Transformational Infrastructure Projects

バイデン大統領とブティジェッジ運輸長官は49億ドルの財源を発表した。これは国家インフラプロジェクト支援（メガ）助成金プログラムおよびアメリカ再建のためのインフラ（INFRA）助成金プログラムを通し、37のプロジェクトに充てられる。インフラ投資雇用法（IIJA）で作成され2026年まで財源に50億ドルを拠出するメガプログラムは、特に大きく複雑で伝統的な助成金プログラム下で資金調達するのが難しいプロジェクトに焦点を当てている。IIJAにより50%以上財源が増やされたINFRAプログラムも大規模な革新的インフラプロジェクトに資金調達する。

ドイツ 2024年1月25日 BMDV

■ BMDV とハンブルク市、ケールブランド橋をモデルに「リアルラボ・デジタルツイン」を始動

BMDV und Stadt Hamburg starten „Reallabor Digitaler Zwilling“ am Beispiel der Hamburger Köhlbrandbrücke

連邦デジタル・交通省は、ハンブルク市との協力で「リアルラボ・デジタルツイン」を始動する。これは同市のケールブランド橋を仮想空間上に再現したパイロットプロジェクト「smartBRIDGE Hamburg」をベースにしており、いわゆるデジタルツインによって将来を見越したサステナブルな交通インフラのメンテナンスを可能にするものである。ヴィッシング交通大臣によると、実際の橋梁に取り付けたセンサーからバーチャルモデルへ、橋梁の状態や挙動のリアルタイムデータが送られる。それらの情報と定期点検・分析のデータを組み合わせて処理することで、構造物への負担レベル、損傷箇所の予測や近々に修繕の必要な箇所を素早く認識でき、より迅速な対応が可能になる。

フランス 2024年1月26日 Le Parisien

■ 高速道路：2月1日から道路網の大部分において平均3%の通行料金引き上げが実施される

Autoroutes : des hausses moyennes de 3 % sur la plupart des réseaux dès le 1 er février

毎年のように2月1日になると、高速道路の通行料金がインフレ率（今年1年間で3.87%上昇）および道路運営会社の投資額を勘案して再評価される。交通省の資料によると、今年は道路全体を通して3%の引き上げに留まるとされている。ヴァンシ社によると、同社が運営している道路の大部分において通行料金の引き上げはなく、当初計画されていた平均5%の引き上げも現実には行われないうだ。通常は交通インフラ会社に対する課税の引き上げが通行料金の引き上げにつながることが多い。

イタリア 2024年1月26日 Il Fatto Quotidiano.it

■ メッシーナでリティー口高架橋の引き渡しさがさらに延期される：高速道路工事は9年も続いている（海峡大橋のための戦略的工事）

Messina, slitta ancora la consegna del viadotto Ritiro : l'opera autostradale (strategica per il Ponte sullo Stretto) si attende da nove anni

メッシーナからカターニアとパレルモへと続く2つの高速道路を建設するインフラ工事であるリティー口高架橋の工事完了がまたしても延期になる。シチリア島の東部海岸からは必然的にここを通ることになるので、この海峡大橋は決定的な戦略交通拠点となる。ここ10年もの間、このあたりの道路は一車線で一定の間隔で多方面への迂回路が存在していた。高架橋「O」と「P」についても、1998年に計画が提出され2009年に工事が完了したが工事の実務の詳細を詰めることができず、「建設上の欠陥」の指摘により工事受注企業が決まってから9年が経過している。当初2月の開通予定だったが6月の開通も難しく、真夏の時期の開通も懐疑的な目で見られている。

米国 2024年2月1日 Sacyr

■ サシル社とその共同経営者、米国ルイジアナ州高速道路I-10のカルカシュー川に架かる橋の建設受注契約に署名

Sacyr y sus socios firman la concesión de un puente sobre el río Calcasieu en la autopista I-10 en Luisiana (EEUU)

サシル社、アクシオナ社およびプレナリーアメリカズ社は、今後50年間を目途に、米国ルイジアナ州高速道路I-10の拡張計画に参加する。この計画により新しい橋が建設されることになり、同計画は21億ドル（19億ユーロ）の投資を必要とする。計画によると、設計、建設、財務および運営と維持が9kmの道路について実施され、米国で最悪の状態にある橋の一つのカルカシュー川に架かる橋を建て替えることで、交通量を増やし、利便性と安全度も向上させる。建設は今年2024年に開始され、2031年に開通し、2040年には毎日9万台以上の車両が通ることになるといふ。新しい橋ができ次第、古い橋が取り壊される予定である。